

JSL漢字学習研究会の運営報告

JSL漢字学習研究会 代表 濱川 祐紀代

1. 背景

JSL漢字学習研究会は、日本語教育における漢字学習または漢字指導（教育）に関して、多角的かつ総合的に研究・議論する場として、2004年に発足した。年に約4回研究会を開催、また年1回会誌を発行し、会員間での意見交換や情報交流を促してきた。現在、JSL漢字学習研究会は日本語教育学会テーマ領域別研究会に登録されているが、学会等からの金銭的サポートは受けていない。そのため、会場費や機材費、会誌作成などの費用を確保することや先を見通しての運営が難しく、事務局スタッフの人脈やボランティア精神で支えてきたのが現状である。また、講師謝金等を支払うことができず、研究会会員が期待する研究者や教材作成者等を招待し話を聞くということが叶わなかった。さらに、ホームページ内容の充実を含む広報活動へ力を注ぐこともできなかった。そこで、活動助成を得ることにより、研究会の開催、研究会の内容の拡充とともに、広報にも力を注いでいきたいと考えた。

2. 活動報告

2-1. 講演会の開催と講演内容

2011年度は研究会を5回開催した。以下の表に、研究会の開催日ごとの発表者名と発表タイトルを表にして示す。〈<http://jsl-kanji.com/event/title.html>〉も参照されたい。

第33回（2011.06.11）

タイトル	パワーポイントを用いた初級漢字導入の実践と可能性
発表者	池絵里子（マカレスター大学）
タイトル	自律性を育てる漢字クラスの実践報告と教師の役割の考察
発表者	渡辺陽子（早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師（インストラクター））
タイトル	「生活者としての外国人」に向けた漢字学習スマートフォン教材の開発—とよた日本語学習支援システムにおける取り組み—
発表者	土井佳彦（名古屋大学留学生センター）・内山潤（金城学院大学文学部）・徳弘康代（名古屋大学国際交流協力推進本部）・廣澤周一（株式会社ダイヒットカンパニー）

第34回 (2011.09.17)

タイトル	漢字系統樹と漢字イメージトレーニング
講演者	善如寺俊幸 (東京外国語大学留学生日本語教育センター)
講演内容	http://jsl-kanji.com/event/kouen34.html
タイトル	文字と空間感覚—ビジュアル文化との関係から—
発表者	岡山恵美子 (メルボルン大学アジア・インスティテュート日本語学科)
タイトル	漢字学習のための教室活動と活動目標 (ワークショップ)
発表者	濱川祐紀代・二瓶知子 (国際交流基金日本語国際センター)

第35回 (2011.12.10)

タイトル	中日同形語の語義相違の要因
発表者	何宝年 (愛知淑徳大学大学院コミュニケーション研究科)
タイトル	外国につながる子どもへの学習支援開始にあたって—東京都葛飾区の事例を通して—
発表者	福島育子 (東京国際大学付属日本語学校)
タイトル	ドイツの中等教育における漢字指導
発表者	川名恭子 (早稲田大学日本語教育研究センター)

第36回 (2012.02.25)

タイトル	年少者日本語教育における漢字教育—語彙力の育成に向けて—
講演者	石井恵理子 (東京女子大学)
講演内容	http://jsl-kanji.com/event/kouen36.html
タイトル	SILK漢字学習ストラテジーテストのオンライン化
発表者	バーバラ・バーク (宮城学院女子大学)・秋山實 (eラーニングサービス代表取締役)
タイトル	効率的な漢字学習の支援を目指した漢字の分析
発表者	ヴォロビヨワ・ガリーナ (キルギス民族大学上級講師・国立国語研究所招聘研究員)
タイトル	日本語の漢字語彙テストから見た中国人中級学習者の漢字語彙処理の問題—視覚呈示と聴覚呈示の比較を中心に—
発表者	魏娜 (筑波大学人文社会科学研究科)

第37回 (2012.03.17)

タイトル	見える漢字と見えない漢字
講演者	齋藤洋典 (名古屋大学大学院情報科学研究科認知情報論講座教授)
講演内容	http://jsl-kanji.com/event/kouen37-1.html
タイトル	常用漢字の書き方を独学でより早く身につけることについての偶感
講演者	ハイジック・ジェームズ (南山宗教文化研究所第一種研究員)
講演内容	http://jsl-kanji.com/event/kouen37-2.html

上の表で、網掛けした部分は、活動助成を活用し行った講演会である。また、報告者が講演内容の要約をし、ホームページにその報告文を掲載した。講演内容は表中に記したURLをご

参照いただきたい。

2-2. 会誌の発行

2011年度（2011年4月～2012年3月）は2-1節に述べた第33～37回研究会を開催した。年1回発行している会誌にはそれぞれの発表者が執筆した原稿が掲載される。2012年3月に発行した会誌第4号には2011年1月より2011年12月までに開催した研究会の記録が掲載されており、2012年1月～3月に開催した研究会の記録は2013年発行の第5号に掲載される予定である。

2-3. 広報用パンフレットの作成

研究会の広報用パンフレットの作成は、次の手順で進めていった。

1. 多くの人の注目を集め、親しみの持てるようなロゴをイラストレーターと相談
2. イラストレーターがロゴを作成
3. パンフレットのレイアウトや内容を考える
4. イラストレーターが3の内容を盛り込んだパンフレットを作成
5. 印刷所にA5サイズ（A4サイズの2つ折り）になるよう、仕上げ・印刷を依頼

実際に作成したロゴは、右図のとおりである。また作成したパンフレットは「4. 添付資料」を参照されたい。今回作成したパンフレットは、現在日本語教育に従事している方やこれからそうしようと思っている方にすべて配布した。パンフレットによる広報の効果ははっきりとはわからないが、多くの人に、研究会の存在や活動内容が広く、印象に残るように伝えられたのは確かだと考える。今後も改訂しながら、パンフレットを作成・配布し、漢字教育研究関係者のネットワークを広げていきたい。



2-4. ホームページリニューアル

既存のホームページは無料ブログツールを用いていたことから、企業広告がウェブページ中央に掲載されたり、できることに限りがあったりするなど問題がたびたび生じていた。そこで、活動助成を活用し、ホームページの改訂を行った。改訂されたホームページのURLは〈<http://jsl-kanji.com/>〉である。

改訂により、①研究会の会員以外の人にも活動内容がわかるようになった。例えば、講演会については2-1節に述べたように講演内容の要約がホームページに掲載されている。また、過去の発表タイトル一覧などもあり、どのようなことに興味を持つ人が集まる会なのか伝わるようになった。②入力フォームによって、問い合わせや参加申込、会誌購入などが可能になった。

会員の反応としても新ホームページは好評であり、研究会への参加申込や会誌購入の注文だけでなく、多くの問い合わせなども届くようになった。またそのアクセスしてくださっている人の中には、日本人児童を対象にした国語教育の従事者が増えており、当研究会が活動助成を得たということが漢検ホームページに掲載されたことも一因だと考えられる。

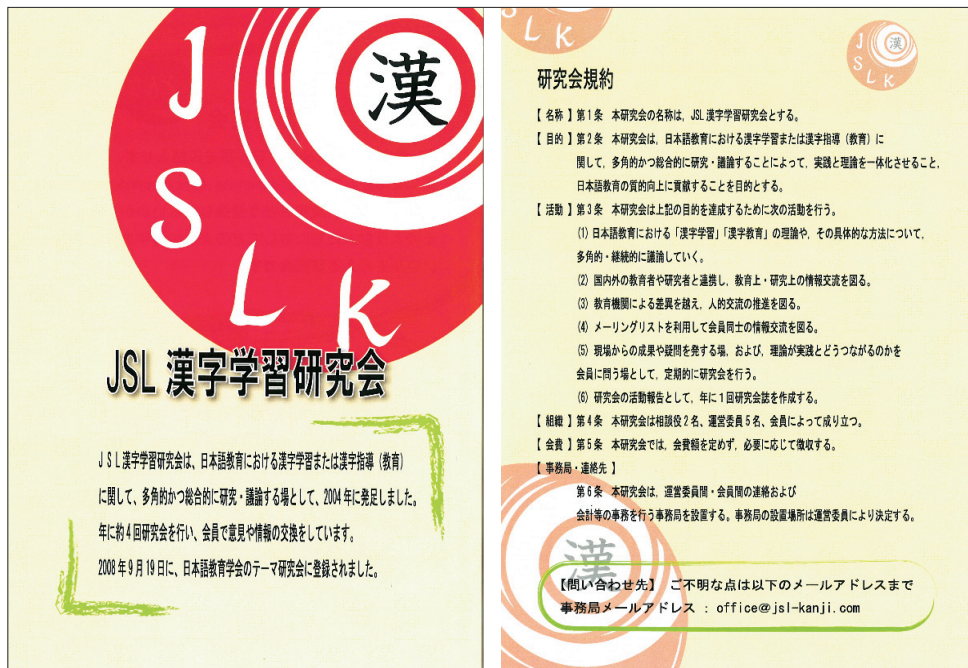
3. 結果と展望

概ね、当初の計画に沿った活動を行うことができた。研究会の運営費だけでは成し得なかつ

た講演会の実現やホームページ改訂、パンフレットの作成は、今後の研究会運営にも非常に有益な財産となり、継続して活用していきたいと考えている。今年度はまずパンフレットの増刷から始める。また、研究会に参加した人同士の交流や情報交換が図れるようワークショップなども試みる予定である。

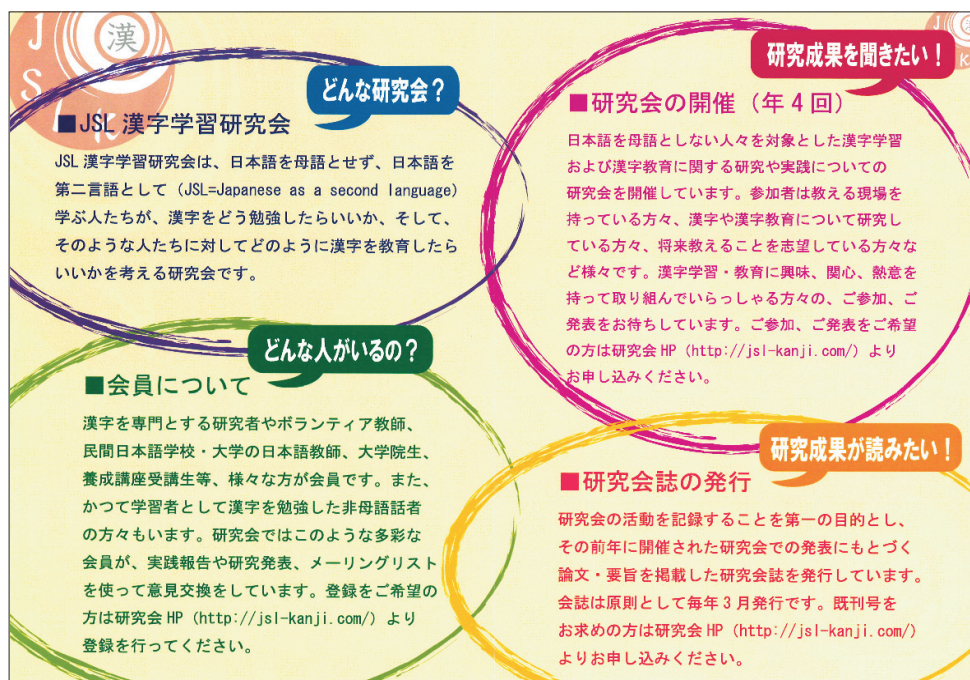
4. 添付資料

広報用パンフレット



表紙

背表紙



中面